



令和3年度 清水小学校だより(在校生バージョン) 令和4年3月24日発行

清水の子

文責 校長 沖島 宏幸

しっかり考える子 ・ 自らよく行う子 ・ すこやかな子

進級・卒業を祝い…私からのメッセージ



17日の卒業式で、卒業生の皆さんへお祝いとして贈った詩ですが、在校生の皆さんにも伝えたいと思います。一人一人が自分らしさを磨いて、一生懸命に生き、「自分らしい人生の花」を咲かせ、実らせることを心から願っています。

赤い花は 赤く 白い花は 白く
自分の個性を生かして 力いっぱい 自分のために咲けばいいのです

赤い花は 赤く 白い花は 白く
お互いのよさを認め合い 心やさしく ひとのためにも咲けばいいのです

自分のことだけ考え
他人の迷惑をも思わず
善悪の判断のないまま咲いた花は
どんなに大きく美しくても
人生の実をつけることはないでしょう



赤い花は 赤く 白い花は 白く
それぞれが助け合い 励まし合い
謙虚に 誠実に 世のため咲けばもっといいのです
もっと輝くのです



お別れに際し



私事で申し訳ございませんが…いよいよ皆さんとお別れすることになりました。皆さんと当分お会いできないと思うと、惜別の情が胸に溢れてまいります。

皆さんは、私を温かく迎え入れてくださって、おかげで、この2年間、毎日楽しく過ごすことができました。そしてさらにうれしいことは、この清水で、たくさんの生涯の友を得たということです。このたび本校を去ることになりましたが、どうか生涯にわたっての友として、いついつまでもお付き合いください。

宮沢賢治の詩の一節に、

ああ友だちよ 空の雲がたべきれないように 君の好意もたべきれない

というのがありますが、皆さんはたべきれないほどの友情とご厚意を、私に与えてくださいました。本当にありがとうございました。大変お世話になりました。

また、この学校だより「清水の子」も今回をもって最終号とさせていただきます。私の勝手な思い、そしてつまらない内容でしたが、お付き合いいただきありがとうございました。

[裏面もあります。ご覧ください。]

4月の主な行事予定

- 7日(木) 着任式 始業式 大掃除 ※給食なし
- 11日(月) 入学式
- 15日(金) 歓迎集会 歓迎遠足
- 18日(月) 1年給食開始
- 22日(金) 授業参観 懇談会
- 25日(月) 家庭訪問(挨拶訪問)開始日



○あくまでも、現時点での予定です。変更がある場合は、お知らせします。

子どもたちの更なる成長を願い

目指す児童像「しっかり考える子」「自らよく行う子」「すこやかな子」を合言葉に、また、下の「十戒」を教師の心得(目指す教師像)として日々の教育活動を推進してまいりました。至らなかった点多々あったかとは思いますが、どうかお許してください。

- 1 子どもをこばかにするな。教師は無意識のうちに子どもを目下の者と見てしまう。子どもは、一個の人格として対等である。
- 2 規則や権威で、子どもを四方から塞いでしまうな。必ず一方を開けてやれ。さもないと、子どもの心が窒息し、枯渇する。
- 3 近くに来て、自分を取り巻く子どもたちのその輪の外にいる子どもに目を向けてやれ。
- 4 ほめることばも叱ることばも、真の「愛語」であれ。愛語は、必ず子どもの心にしみいる。
- 5 暇をつくって、子どもと遊んでやれ。そこに、本当の子どもが見えてくる。
- 6 成果を急ぐな。裏切られても、なお、信じて待て。教育は根くらべである。
- 7 教師の力以上には、子どもは伸びない。精進を怠るな。
- 8 教師は「清明」の心を失うな。時には、ほっとする笑いと、安堵の気持ちをおこさせる心やりを忘れるな。不機嫌・無愛想は、子どもの心を暗くする。
- 9 子どもに素直にあやまれる教師であれ。過ちはこちらにもある。
- 10 外傷は赤チンで治る。教師の与えた心の傷は、どうやって治すつもりか。

毛涯章平先生の わが教師「十戒」

この十戒、いかがでしょうか。「教師」という部分を「親」と置き換えて読んでみると、子育ての参考にでもなるのではないのでしょうか。

うれしいですね、がんばっている子どもたち

— 子どもたちの校外での活躍 —



※ 敬称略

「かべ新聞コンクール」

アイデア賞 万徳・城山町子ども会 [向○ ○(4年1組) ○ 優○(4年2組)]

ルーキー賞 俵町子ども会 [○岡 ○葉(2年1組)]

「赤崎杯ミニバスケットボール大会」 3位 清水小学校女子ミニバスケットボール部